ムロアジ棒受け網漁業操業に向けたクサヤモロに関する基礎的研究

【背景と目的】

小笠原の棒受け網漁業は令和６年までの過去 18 年間操業を停止しており、令和６年度から水産課の「持続可能な網漁業の推進事業」として試験操業を実施している。事業内では今後資源管理協定を策定予定だが、その基盤となる基礎生態情報が不足している。

そこで、年齢や耳石を用いた成長様式の推定、生殖腺切片を用いた繁殖時期の把握、ミトコンドリア DNA 解析を用いた系群解析及び耳石安定同位体や微量元素を用いた経験水温履歴推定を行い他海域個体群と比較することにより系群を明確化し、CPUE 解析により資源状態を明らかにすることで棒受け網漁業の漁獲対象であるクサヤモロの資源管理協定策定の基盤となる基礎生態情報を収集する。

【研究概要】

（１）年齢・成長様式・繁殖時期の把握

・年齢形質解析による年級群推定

・耳石日周輪解析による成長様式推定

・生殖腺周年サンプル収集及び生殖腺解析

（２）系群・他海域個体群との関係の把握

・ミトコンドリア DNA を用いた八丈・東シナ海周辺個体群との系群解析

・耳石酸素安定同位体を用いた他海域個体群との経験水温履歴比較

・耳石微量元素分析を用いた他海域個体群との経験水温履歴比較

（３）CPUE 解析による資源状態の把握

・網漁業支援事業で得られた過去２年分も合わせた５年間の CPUE 解析